

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0372400259		
法人名	特定非営利活動法人 ゆう・ゆう		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	岩手県花巻市東和町安俵6区97番地 (電話) 0198-43-1050		
評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号		
訪問調査日	平成20年10月3日	評価確定日	平成20年11月6日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤1人, 常勤換算 7.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	49,170 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1		名	要介護2 2 名
要介護3	6 名		要介護4 1 名
要介護5		名	要支援2 名
年齢	平均 87 歳	最低 83 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立東和病院	織笠内科医院	おばら歯科医院
---------	--------	--------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームなごみは、東和町のほぼ中心部に位置し、周囲には県立東和病院、消防署、図書館が隣接するなど、環境に恵まれている。また、ホームの隣にある産直センターとは親しく交流をしている。土地、建物は旧東和町と10年契約で、NPO法人ゆう・ゆうが運営の委託を受けている。そのため利用料を低く設定できており、花巻市には決算の報告を毎年行っている。平成21年4月には更に1ユニットを開設予定である。利用者は介護度が高くなり出来ないことも増えてきたが、理事長を先頭に職員が利用者本位の生活を支えている姿は温かくほほえましい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回は4項目に改善課題が求められている。既に改善に向けて取り組まれたものと、現在取り組み中の項目とがあるが、いずれも、自己評価を繰り返し行ったり、職員会議を開いたりする等、努力がなされている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>単元ごとに分けて自己評価項目の検討を全員で行い、今回の評価として提出に至った。外部評価の結果についても、全員で共通把握をし、運営推進会議でも結果の報告をしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホーム側からの報告が主だった会議から、委員側からの働きかけが出てくる会議になってきており、委員の方からは、職員の手が足りない部分にボランティアとして協力の申し出がでてくるなど、理解が浸透し始めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>開所以来、苦情や意見はほとんどない。年1回実施している家族アンケートにも、苦情や意見はない。「普通」との回答は「良い」とはとらえず、より改善の方向へ取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>年毎に介護度が変化し、昨年まで出来たことが今年は無理になったことが多くなったと感じており、ホームから出かける回数も減少している。自治会や老人クラブ等との交流を考えホームに来ていただく方法もあると考える。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆとりと安らぎ」「入居者の気持ちを大切に」開所時に作られた理念を掲げている。毎月の目標を別に掲げ、9月の目標は「季節の変わり目、衣類、寝具の調節で健康管理」である。開所時の「熱い思い」を大切にしたいと考えている。	○	運営方針には地域との交流が唱われているが、理念の中には地域密着型が盛り込まれておらず、検討が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関ホールに掲示されてある。ホーム独自で理念や心構えなど12項目を記載した「なごみ憲法」を作成して全員が携帯しており、職員会議では其の中の1項目を取り上げて、日常業務の振り返りが行われている。最近少しずつ職員からの意見も出るようになってきた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年に比べて外に出かけることが少なくなった。2日に1回の買い物や産直への買い物など、外出する場所が限られてきている。以前は婦人会、ボランティアの来所もあったが、これも少なくなってきている。	○	保育園、小学校の運動会見学を行っている。以前は公民館との交流もあったが最近は行っていない。秋祭りの、子供みこしがホームに来てくれた。天候の良い日に、体調の良い人を外に連れ出す工夫を試みることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年5回、単元ごとに分けて自己評価を全員で行っている。本年度検討されたものを来年度の自己評価として提出の予定である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームを理解してもらうことが第一と考え個別のケースを話題にして、具体的にホームの役割を知ってもらうようにしている。前回の改善項目についても、取り組みの経緯を説明し理解をいただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市に対しては、運営管理状況報告をしている。毎月、保健・医療・福祉関係の連絡会議に参加し、連携を深めている。第2なごみ(2ユニット目)の建設、スプリンクラー設置等、市に対して継続して働きかけをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料金の納付に来所した家族に対して、利用者の暮らしぶりを金銭出納を合わせて報告している。定期通院者が8名あり、家族の介助が原則であるが、ホームで対応(有料)することもある。また、この結果を聞いたり、電話で報告することもある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、これまでに利用は1件もない。年1回実施しているアンケートには来所時における職員の対応や、年2回行われる行事(バーベキュー・忘年会)の感想を聞いて日常業務の参考にしてている。	○	ホーム独自で家族アンケートを実施し積極的な取り組みが見られるが、外部の方に協力をもらったり、外部の相談窓口を紹介をするなどの工夫により、家族等による意見や苦情を受けやすく配慮されることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在のところ異動は行われておらず、退職者は今まで1名と、安定した職場環境である。月1回の職員会議を開催して意見を聞いたり、年2回管理者と職員との面接を行い、それぞれの目標を聞く努力がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修には、積極的に参加をさせる体制が取られており、他施設への現場研修には4人の職員を派遣し成果をあげている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・ブロックの認知症グループホーム協会の研修には、ほぼ参加をしている。花巻管内のグループホームとは頻繁に情報交換を行い、待機者の状態や困難事例等について、連携を取り合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームを見学していただくとともに、利用開始日には家族に長く居てもらおうとしている。本人が納得できない状態での利用もあるので、来所回数を多くしてもらい、徐々に馴染んでいただくように、家族の協力をもらっている。来所できない家族とは頻りに電話で連絡を取り合い、様子の説明を行い、理解をいただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	心身機能の低下が進んできているので、会話する機会を多く持ち、気持ちの汲み取りに心がけている。個々の要望にバラつきが多い為、生活歴を念頭にその人に合わせた対応の仕方に心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のシートを利用して書き込みをしている。変化がある場合の記入がしやすく良い。利用者に希望を聞いてもなかなか出てこないため、会話の中から汲み取り、推察するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者1～2名に1人の職員が担当として決められている。3ヶ月ごとに本人、家族との話し合いを行い、介護計画の作成及び見直しをしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直しに向けて、大きな変化に対しては随時対応し見直しをする。申し送り程度で対応可能なことについては連絡簿の回覧で対応している。処遇検討会議は月1回開催している。	○	介護計画の随意的見直しは、退院時など変化の大きい時に行い、その他状態の変化に合わせた対応は申し送りなどで行われている。介護計画の見直しを家族からの意見や同意を得ながら進める為にも、きちんと書面に残し、変更内容については介護計画も変更していく事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	都合の悪い家族に代わって通院の介助、床屋、美容院、買い物(衣類、薬)の支援が行われている。また、家族に対して宿泊提供が日常的に行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前からのかかりつけ医を利用している方が5人いるが、ホームの協力医である県立東和病院に変更した方もある。変更の理由は、急変時の対応を心配する家族からの希望である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制をとっている。家族に対してもターミナルについては、ぎりぎりのところまでホームで対応する旨を伝え理解をいただいている。協力医側からは、夜間の診療は出来ないため、急変時には救急車を利用するように指導されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	秘密保持、プライバシー保護については、職員会議で事例を挙げて学習検討を行っている。日々のケアを行う中で、気がついた時は職員同士、又は上司から助言をもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事をとりながら、お茶を飲みながら、さりげない会話の中から利用者の望みや想いを汲み取る努力をしている。外出はドライブや花巻祭りに行っている。朝になかなか起きない方は、目が覚めるまでゆっくり休んでいただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員に調理師がおり、4日分くらいの献立予定を作成している。季節の野菜や海草など差し入れがあると、予定を変更している。季節感を大事にして、行事食や伝統食を取り入れる努力がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴は可能であるが、毎日入浴している方はいない。どなたにも見守りを欠かさず、着替えは職員が必ず目を通して交換されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割や楽しみごとは一人ひとりに合わせるようにしており、職員からの押し付けはしないが、昨年に比べて外出、裁縫、歌を歌うことが、出来なくなったり、少なくなったりしてきている。枝豆をみんなでもいんだり、職員の工夫が行われている。	○	食材刻み、配膳手伝い等ができる利用者もあるが、だんだん作業しづらくなってきている。静かに座っているだけではなく、小さなことを見つけて楽しみにつなげる努力を望みたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しは、2日おきに2～3人が同行してスーパーや産直で買い物をしたり、外に出る支援をしている。本人からの希望は少ないが、散歩の希望に対して、対応できない場合は、変更することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間(20:00～7:00)を除き、日中はオープンで非常口の補助ロックも今は使っていない。見守りを十分に行っているため、事故やエスケープは起きていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を地元消防団と行っているが、地域の人達の協力参加には至っていない。緊急時のマニュアルは作成されているが、必要な備品は確保されていない。	○	ホームの周囲に、住宅はなく「地域の協力」を受けるのは大変であり、夜間の避難を想定すると対応はとても難しい。地域との関係や備蓄についても検討を望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士より助言をもらい指導を受けている。水分は1日1000～1200ccを目安に5～6回に分けて摂っている。体重測定は月1回、状態に応じた食事作り(とろみ おかゆ)に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除が行き届き清潔である。ホールには利用者の作品や写真が貼られ目を楽しませてくれる。植物鉢がたくさん置かれており、気持ちが休まる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一部に家族の協力が得られず私物の持込が少ない方があるが、冷蔵庫、テレビ、連れ合いの写真や灯明をおき、毎朝ご飯を上げる方もいて、家庭的雰囲気が良い。		